

●韓国

十月社会主義大革命一〇二周年を迎えて、日本の労働者同志たちに

労働社会科学研究所運営委員会

十月社会主義大革命一〇二周年を迎えて記念集会を開催する日本の労働者同志たちがうらやましいです。ご存知のようにここ韓国では、一九八〇年代までの露骨な新植民地ファッショ下ではありませんが、まだそのような集会は開催できず、民主労総が主催する全泰壹烈士追悼をかねた労働者大会で満足しています。

ところで、記念集会を開催する日本の労働者同志たちや韓国の労働者たちにおいて、いや全世界の目覚めているすべての労働者たちにおいて、社会主義大革命一〇二周年を迎える心もちが複雑で重いのは同じことだと思います。革命の勝利を喜ぶよりは、二〇世紀社会主義世界体制の解体の原因を究明して、それらと闘わなければならない、近ごろ世界的な趨勢となっている右翼および左翼ポピュリズム、すなわち事実上のネオ・ファシズムおよび社会主義を僭称する者らに対する対応・対決を模索しなければならないことが時代の要請であるからです。いま韓日の間でも、独占資本が助長し煽りに煽る民族主義・愛国主義との闘いと、この闘いにおける韓日労働者階級間の強固な連帯の構築が緊急の問題ではないでしょうか。

ソ連をはじめとした二〇世紀社会主義世界体制が解体されてまもなく三〇年。労働者階級は、まだその政治的・思想的混乱を克服できないまま、“第四次産業革命”とか“AI革命”とかいう生産力の空前の発展、再生産過程一般の急速な自動化・無人化とともに社会の大変革期を迎えています。物質的生産の諸条件は、人間による人間の搾取のない、より高度な社会への革命の不可避性を雄弁に物語っていますが、その革命の主体であるべき労働者階級は、独占資本のイデオロギー操作と小ブルジョワ急進派の左翼ポピュリズム、すなわち社会主義を僭称する者らに足首をつかまれて前進できなくなっているのでしょう。

労働者階級がこのような混乱と行き詰まりを打開して革命的に進出・闘争する際に触媒・先鋒になること。それは、この時代の先進労働者たちの光栄な任務に他なりません。十月社会主義大革命一〇二周年を、そのような光栄な任務をともに再認識して、その遂行を誓う契機にしたいと思います。

日本の同志たちに、熱い連帯の挨拶を伝えながら。

二〇一九年十一月九日

ソウルから

労働社会科学研究所運営委員会

【訳＝土松克典】

(『思想運動』1048号 2020年1月1日号)